

厚生省（終） 弱きを挫く

厚生省前次官岡光某らの一大汚職の場は埼玉県。その特養ホーム全国組織の会長I氏も埼玉。偶然の一致ではあるが、福祉現場が官僚たちになめられ、また現場が極めて迎合的、事大主義的であることが露呈されている。同県で衆議院議員に立候補した汚職官僚茶谷某が当選しておれば、摘発されず、彼ら一味は数年で全国制覇をなしているはず。バックに現首相もいるから。

もはや福祉施設界は福祉理念を失った連中で汚されている。この強きを助ける卑怯な福祉土壌が汚職の発生源である。例えば、全額税金で運営されるこの施設集団は政治団体にきりかえて選挙活動をしている。無知、無恥、厚顔の見本。

では、お前はどうかんだ。無力孤立の私にできることは各施設に要請される不法文書は一切握りつぶす。抗議もした。「老人福祉は枯木に水をやるようなもの」と全国を放言し回った阿部老人福祉課長に対し。彼の講演速記録に基づいて。この記録こそ

全社協幹部たちが名演説として迎合的にも大会（大分会場）で配った代物。幹部たちの見識のほどが分ころう。

また、「福祉は聖職でない」と全国を演説し回った浅野障害福祉課長。講演前に白紙を渡し、感想を書けと念の入れよう。役人が公の席上で一卑見いちひけんをのべる非常識を指摘した。彼は謝った。二人共次官への道をやめ厚生省を去り、後に参議院議員と某県知事になつてゐる。ひとはかえつて偉くなつたという。だからといって、二人の言動が正しくはならない。

福祉現場は今こそ原点に戻るべきだ。強きを助けず、ただ「弱いこの一人のために」と献身した偉大な先輩、留岡幸助、石井十次がいたではないか。

（一九九七年一月二十九日）